第１回学校評議員会・コンソーシアム合同会議　議事録

期日　令和６年６月４日（火）
時間　午後３時 00 分～午後４時 30 分
会場　岩手県立久慈東高等学校　会議室

１　開会（副校長）

２　校長挨拶（校長）

日頃から本校の活動に対して多大なる御支援、御協力をいただいていることに心から感謝申し上げる。

今年度、123 名の新入生を迎え、２、３年生を合わせると 401 名で新年度が始まった。大きな事故や怪我もなく順調に学校生活を送れていると感じている。学年を問わず、学校生活への不安など、様々な要因による心身の不調で、登校が難しくなっている生徒もいるという現状況にある。学校として、校内での対応だけでなく、外部機関に繋げながら、新体制を築いて対応しているところである。

先週まで県高総体が行われた。地元開催となった柔道競技では、男子 90kg 級で第二位、女子 60kg 級で第一位となり、それぞれ東北大会やインターハイへの出場権を獲得している。他競技にも参加しているが、中にはあと一歩のところで上位大会進出となるところもあり、健闘したと感じている。

来月からは、夏の甲子園に向けた岩手県予選が始まる。本校野球部は、春季大会における県北地区予選を通過し、県大会でも一勝している。さらに上位を目指して励んでいるところである。ご声援をいただきたい。

創立 20 周年の記念事業として、今月の２５日には、野田村のライジングサンスタジアムで久慈高校の野球部を招いての招待試合を予定している。11 月 20 日には、アンバーホールを借りて記念式典を開催する予定で準備を進めている。

久慈工業高校との統合について、久慈翔北高校（仮称）が来年４月に開校予定となっている。両校の職員を中心に、統合準備委員会で様々な問題解決に向けた取り組みを進めているところである。校歌や校章については、10 月をめどにお披露目したいと考えている。

委員の方々には、様々な観点から質問や意見をいただき、学校の運営に反映していきたい。

３　概況説明

（１）学校経営方針について
　　資料５～６ページの通り説明。
（２）久慈工業高校との統合について
　　資料７ページの通り説明。
（３）学校運営協議会の設立について
　　資料８～９ページの通り説明。
（４）今年度の重点目標について
　ア　各課より
　（ア）総務課（総務主任）

資料 10 ページの通り報告。

（イ）教務課（教務主任）

資料 11～12 ページの通り報告。

（ウ）生徒指導課（生徒指導主事）

資料 13～14 ページの通り報告。

（エ）進路指導課（進路指導主事）

資料 14～15 ページの通り報告。

質疑応答

・（Ａ委員）

２年次から系列に分かれるということだが、１年次で方向性を決めるのは難しいとのではないか。２年次になり、様々な勉強をして、目標の変更が変わってきたとき、系列の変更を希望しても手遅れだと言われたという話を聞いた。途中での系列や進路を変更はやはり難しいのか。また、７月にある系列選択の調査に関して、期間が短くて決められないという話もある。どのような対応が可能か。

〈回答〉１年次のうちに、様々な説明会や体験を通してよく考え、系列を選択してもらい、３年次まで変更しないというのが基本原則となっている。しかし、実際には系列を変更したいと申し出る生徒もいる。教科書や必履修の単位など、様々な条件を満たす必要はあるが、絶対にできないということではない。

１年次の系列選択に関して、７月の希望調査で決定し、その後は変更できないということではない。１２月にも三者面談があり、その後も１月まで相談できる期間はある。各種説明会を踏まえ、１年を通してきちんと話し合った上で選択してもらう。選択が難しいということであれば、遠慮なく相談してほしい。（教務主任）

〈補足〉仮に系列を変えられなかったとしても、進路については、どの系列に所属していても、希望する進路をかなえられるようなサポートはしていく。ただし、系列に分かれ、専門の勉強をする時間は二年間しかないため、よく話し合った上で、後悔のない選択をしてもらいたい。（副校長）

・（Ｂ委員）

管内だけでなく、県内、県外と広く生徒を募集できるよう、この統合を機に特色のある学科を開設することはできないか。また、近年の状況から、管内就職を志している生徒は少ないようである。インターンシップ等の機会を通じて地元企業の魅力を伝え、管内就職にも目を向けてもらえるような工夫も必要であるように感じている。

〈回答〉１年次では、振興局に協力してもらい、地元の企業を見学するという取り組みを行っている。２年次では、管内企業に依頼し、インターンシップを実施している。青年会議所の協力のもと、企業の方と話をする機会も設けた。様々な取り組みを通して、地元企業を知る機会をこれまで以上に増やしている。コロナ禍の影響もあったかもしれないが、地元企業について知ることができたことによって、地元就職を志す生徒の割合は大きくなっている。しかし、全体的な生徒数が減っているため、地元企業に就職する生徒の数は減っているという状況にある。今後、増やしていくことは難しいと考えている。引き続き、管内の企業に目を向け、魅力を発見できるような取り組みを続けていきたい。（進路課主任）

〈補足〉学科について、改変するとなると、県議会の議決を得る必要もあるため、実現は難しいものと考える。現状の形で新設校をスタートさせることにはなるが、社会に開かれた教育課程とするため、この学校評議会で様々なご提言をいただきながら、より魅力的な学校にしていきたいと考えている。（副校長）

〈関連〉少子化の中で、今後、高等学校がどのようにあるべきかが話題となっている。少子化による生徒数の減少と、生徒数確保のための高校の魅力化については、他県でも取り組んでいる課題である。実際のところ、他県から岩手県に来る生徒もいれば、他県に出ていく生徒もいる状況にある。学科を新設できるかできないかは別として、魅力ある学びに関して、いただいた意見を県に報告しながら、我々も取り組んでいきたい。（校長）

・（Ｃ委員）

資料５ページ「学校経営計画」の「今年度の重点目標」に関して、昨年度の達成指標と実績の数字はどうだったのか。また、その中のオとカの項目はどのように計っていくのかを知りたい。

〈回答〉指標については資料 16 ページに掲載している「学校評価アンケート」がもとになっている。昨年度の指標を参考にして今年度の指標を立てているが、昨年度から変更しているところはない。昨年度の実績については、項目によって達成度に差があるものの、すべての項目で達成できていた。進学や就職といった進路の項目以外については、アンケートの回答から数字を出している。（校長）

・（Ａ委員）

企業側への要望になるが、生徒が憧れを持つことができる職業体験の機会を設けてほしい。高校生の時点で、仕事への憧れを持つことができている生徒は少ないように感じる。目の前で見たり、体験したりすることが、仕事を知る機会となるのではないか。

・（Ｂ委員）

企業側としては、体験事業等で生徒が企業を訪れる機会があると、その対応等で企業側の勉強にもなると感じている。一関ではキャリア教育の取り組みが先進的で、仙台市が近くにあるにもかかわらず、市内での就職率が高いという実績がある。企業側も、魅力を伝えられるような取り組みをしていきたい。

（５）委員より御助言及び御提言等

・（Ｃ委員）

自分の子供は久慈東高校に通い、進路選択で様々悩みながらも、きちんと卒業した。総合学科の久慈東高校に通う中で、様々な系列で学ぶ仲間や先生から得られる情報によって、自分で気づくことができなかった自身の強みに気づくこともあり、それは久慈東高校の良い点だと思う。

今回の評議会において、いじめ発覚のきっかけの多くがアンケートや生徒からの相談によるものだったことを知った。大人にゆとりが無くなっているといった、社会のネガティブな面が影響し、家庭で子供の異変に気付けなくなってきているのかもしれないと懸念している。

いじめの認知件数が増えていることについて、生徒の細かい観察の結果だという話があった。現状把握ができていなければ、課題やアクションは見えてこない。本質に向き合っている学校の姿勢に共感した。

世帯数や生徒数、子供の数がピークアウトを迎え、手を打つ必要性を感じている。そのた

めにも、ずっと応援してくれている人を大切にしつつ、新しく魅力も発信して、地域の中心になる高校であり続けてほしい。

・（Ｄ委員）

岩手の漁業について、あまり良い状態とは言えない。そのような時に、２９名の生徒が海洋系列を選択しているということで、我々も業務上努力する必要があると感じた。この火を絶やすことのないよう、協力していきたいと考えている。

・（Ｅ委員）

自分の子供が高校生だった時、学校側に生徒の思いを受け入れてもらえなかったという経験がある。説明を聞き、東高校は生徒に寄り添うスタンスで臨んでいることと思うが、生徒の思いを聞いてもらいたいと考えている。

また、生徒が地域の活動に参加するという話もあったが、やるべきことを多く抱えた生徒が参加するのは難しいのではないかと考えている。昨年来校したときに話をしたことでもあるが、地域のことを知ってもらい、興味を持ってもらうことがスタートになるのではないか。

・（Ｆ委員）

系列の話について、自分自身も、高校で選択した系列とは違う仕事に就いている。高校一年生の段階では、自分の進路について決められる生徒は少ないと思う。しかし、違う仕事に就いたとしても、学んだことが無駄になることはないので、その時に生徒が学びたいことを学んでもらいたい。

いじめに関して、認知することが恥ずかしいことではないという話に共感した。人間同士が一緒に生活をしている場では、いじめを本当の意味でゼロにすることはおそらく不可能であると思う。ストレスは必ず出てくるものなので、生徒からの相談で発覚することが多いということはいいことだと考える。アンケートはいつもあるわけではなく、生徒がいつどんな時に悩むかは分からないので、いつでも相談できる雰囲気を引き続き作ってもらいたい。

・（Ａ委員）

高校の三年間で進路を決めるのは難しいことだと思う。系列に関しても、一年かけて、様々相談しながら決めていけるということを聞けたので、悩んでいる生徒や家庭にはそのように伝えたい。

今の生徒は、SNS やスマートフォンばかりで、コミュニケーション能力や表情を作る力が足りないのではないか。表情を作れず、仮面をかぶった顔で話をしているような生徒もいるようなので、教員も気持ちを読みづらくなっていると考える。保護者でもそのような状態が見受けられるため、対面で対話、会話をしてもらえると嬉しい。

・（Ｂ委員）

社会人野球をやっているが、人が減っていると感じる。久慈高校であれば、大学進学で県外に出ると、久慈に帰ってくる人は少ないという状況である。野球を通して久慈東高校にかかわらせてもらい、大変お世話になっている。今後も就職を斡旋しつつ、スポーツや仕事など、目標を持って一所懸命に取り組めることを一緒にやっていきたい。それが社会の生き方にもつながると考えている。

いじめに関して、コンプライアンスなど大変だと思うが、大人からコミュニケーションをとることが大事だと考えている。先ほどの話にも合った通り、地元企業など、大人方からコミュニケーションをとっていくといいのではないか。

久慈東高校の生徒は能力が高いと思う。一度外に出て、地元に帰ってスポーツを教えるといった力を身に付けてくれることを期待している。

・（C委員）

県では再編計画や、魅力化をいった取り組みを打ち出してはいるが、通学手段など、物理的な問題により、市内の中学生の大半は地元の高校に進学している。普通科であれば、五教科の先生、総合学科であれば、それぞれの分野専門の先生がそろっているというように、県内のどこの高校に進学しても、同じような教育を受けられる環境を整えることが大切だと考える。

基礎学力が低いという話もあったが、小中学校でも同じような状況となっている。そのような支援を要する子供に対して、個別指導といった配慮も必要となってくると考えられるので、丁寧な対応をお願いしたい。

4　その他

（1）次回開催日程について（副校長）

資料 16 ページの通り説明。

（2）学校評価アンケートについて（副校長）

項目が多少変更となる可能性はあるが、資料 16 ページに掲載しているような形で実施したいと考えている。学校評議員の皆様にもご協力いただきたい。

6　閉会のことば（副校長）